

2016年度

学生が選ぶベストティーチャー賞

ベストコメント賞発表



2016年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」に、たくさんの投票ありがとうございます。いただいた投票の中から、12件の投票理由を「**ベストコメント賞**」として選出致しました。ぜひご覧ください。受賞者の学生には個別に連絡し、賞品を贈呈します。

教室内を歩き回り、学生にマイクを渡して「3点セット」でコメントを求める授業スタイルが良かったです。大勢の前で自分の意見を述べる機会は普段なく、初めこそ緊張してうまく喋ることができませんでした。段々と自信がついて、春学期が終わる頃には、「自分にマイクが回ってこないかな」と思うほどになりました。授業の内容自体は、映像資料を中心としたもので、内容に関するディベートや、問題解決のためのディスカッションなど、大教室にもかかわらず行われるダイナミックなアクティブラーニングは、主体的に考える思考力と、私の国際協力への興味を引き出しました。そして、この授業のキャッチコピーでもある「夢追うものは夢をもつかむ」が、カッコいい！遊び呆けていたら何も残らずに終わってしまうであろう大学生生活に、痺れるようなキャッチコピーと夢を叶える「方法論」を差し出してくれるこの授業は、間違いなく私にとって大学生生活で最高の授業です！



哲学の授業で、基礎科目なのですが、哲学者とかを扱う堅苦しいものではなく、善とは何か？心は存在するのか？などといった、答えの出ないような題材を、先生チョイスの映画を見ながら、考えていく授業です。思わずSNSに投稿したくなるような、心に響く、先生の名言が多いのが面白く、先生のキャラクターもとても魅力的です。



Best comment award

日常のメディア(映画)やニュースから、その裏にあるアメリカの社会との現実を見出していくことで、私たちに分かりやすく授業をしてくださっている点に感銘を受けております。また、先生の教えにより、物事を繋げて考える、常識を常識だと思わずにまずは疑う、といったことを身につけることができました。全ての生徒の良い部分を必ず褒めた上で、そこからさらに生徒一人一人の良さをもっと引き出せるように助言をしてくださるところに、先生の優しさと思いやりをひしひしと感じています。大学生活で、このような先生に出会えたことを誇りに思っています。



①この先生の授業形態や学生への対応(治安管理やモチベーション向上)それ自体が経営学を体現しているため。②熱血でもなく冷たくもない。教授の立場を踏まえながら客観的かつ身になる指示や指導をしてくれるから。“法大生”の深層心理をよくわかっている。

先生の授業で私の中での意識改革が行われたから。大学生活を漫然と過ごしていて、それをどうにか変えたいと思っていた時に授業を履修した。先生の授業では主にアカデミックスキルについて学ぶ。ゲスト講師も多く様々な考え方に触れながら、グループディスカッションや発表などがあり、主体的に動いていかなければ授業についていけなくなる。今後どのような大学生活を送るべきかを自ら考えることができるとてもよい授業だった。漠然と授業を受けるのではなく、主体的に動いていくことによって、授業の質は自分で変えることが出来るということを認識した授業だった。この授業をとってから、授業中に発言することをあまり恐れなくなった。

建築環境工学（特に温熱環境）に関する基礎事項を練習問題を通じて理解することが出来た。厳しい授業だが、それだけ理解を深め、法政の建築学科を卒業したことの誇りを持ってほしいという優しさを感じる素晴らしいと感じた。

Best comment award

「英語は、簡単な言葉、自分の知っている言葉でシンプルに表現すればいいのよ。」と先生はおっしゃいます。「決して翻訳機など必要ないわ。」とも。私が席を置くのはTOEFLスコア350のクラスです。毎回の授業冒頭に、春学期200語以上、秋学期は400語以上でスピーチを求められています。初めは苦痛以外の何物でもなかったのですが、今では、とにかく発表することを目標に自ら積極的に取り組んでいます。先生の魔法の言葉「英語はシンプルだからこそ世界で使われているのよ。」この言葉に背中を押され、次回実施されるTOEFLに挑戦するべく奮闘中です。語学力のみならず英語に対する考え方を示唆してくださった先生こそ「私にとって最高の先生」です。Simple is best.

授業は静寂の中で淡々と進められ、先生の発音は明瞭でとても聴き取りやすいです。学生の理解を第一に丁寧に授業が進められ、凛とした授業の中にも温かな優しさがあります。先生の衣装はシンプルですが、女性としての奥ゆかしさと、教員としての威厳が感じられます。授業の最初と最後に、学生に対するきちんとした挨拶があり、先生の謙虚な人柄が表れています。



教養を学ぶことの意義は、多様な視点を持つことを可能にすることにある、と思っています。先生の倫理学の授業は、ただただ知識の習得を目指したものとは、一線を画すると思います。具体的には、毎回リアクションペーパーを集め、次の授業の際には、主なリアクションペーパーを必ずフィードバックして下さります。このことにより、自分は、前回受けた授業に対して、他の人がどのような視点から、どのように捉えたのかを知ることができ、自分に無い部分を自覚することが出来るようになります。（自分と同じ考えだが、この部分が違う。あるいは、この視点は、自分には全く無かった。等。）また、先生がコメントを返すことにより、更に、付加価値が生まれていると感じています。正直、自分のリアクションペーパーが紹介され、先生からコメントをもらえるとうれしいです。それにより、更に、授業を真面目に受けようと思うようにもなりました。（例えば、どんな視点から捉えられるのか、疑問点はないか、等。）以上により、教養の目的を最も果たしていると考えますので、先生を推薦させていただきます。

Best comment award

先生はとても面白い先生です。授業も楽しくて、夏休み前の学生が答える授業アンケートで得意げに、スクリーンにQRコードを写して、これいい案だと思うんだよなあっていついた姿に惚れました。高校時代はこれでもスポーツ万能で痩せてたんだよ…みたいなことを言って、走ってプリント取りに行ってた姿がかっこよかったです。毎授業、紙をくばっていて、マイクの音量、教室の温度とかいろいろ生徒を気遣ったり、わからないところを書いてあるときには、次の授業の冒頭で説明したりすごく優しく良い先生です。もしかしたら専門知識じゃなくて、その他への愛を語っているかもしれません。考えたらもっと良いところはありますがここら辺にしておきます。

まちづくりに興味が無かった。どの教授も同じことばかりで去年1年間でお腹がいっぱいだった。だけど、先生は違った。新しい住まいについての提案は自分の関心エリアの外にあったため強烈に面白く、受講生のほとんどを新築一戸建派から賃貸派&改築派に180度変えた！先生は誤解されやすく万人受けしないかもしれない（本人も自覚している）けど私は大好きです！！

英会話が身につくと同時に演劇に関する知識やまたその英単語、演じ方まで細かくレクチャーしてもらいとても楽しく英語の授業を受けることができました。また、少人数のクラスで2人ほどの小劇をすることによって同じクラスの人と学年関係なくたくさん話すことが出来て毎週水曜がとても楽しみになりました。ただただ英語を訳すだけでなく、台本から、役者の気持ちを考えて訳したり、発音の仕方を変えてみたり・・・いつもとは少し違う英語を学ぶことにより、さらに英語が好きになりました。

